

## 軽井沢の別荘地開発と植林の関係性についての研究

### The relationship between villa development and afforestation in Karuizawa

野々村雄介<sup>1</sup>, 渡辺来瑠美<sup>1</sup>, 木村真梨子<sup>1</sup>, 小木曾裕<sup>2</sup>  
Yusuke Nonomura<sup>1</sup>, Kurumi Watanabe<sup>1</sup>, Mariko Kimura<sup>1</sup>, Yutaka Kogiso<sup>2</sup>

Abstract: It was found that large-scale planned afforestation in karuizawa, which was a quiet plain, helped to increase the brand value as a villa in present-day Karuizawa.

#### 1. はじめに

今日、明るく健康的な国際保健休養地として注目を集めている別荘地の軽井沢。近年では星野エリアをはじめとした観光地化が進み、国内外から注目が集められている。軽井沢の「世界有数の別荘地」というものの背景には明治時代に行われた大規模な植林の歴史が深くかかわっているのではないかと推察し、調査研究することにした。

そんな、全国有数の別荘地兼観光地として知られている軽井沢の開発の歴史を紐解くとともに、植林との関係性について調査研究していくことを目的とし、現在の別荘地エリアに及ぼす影響などについて紐解いていくことにした。

#### 2. 研究の方法

対象地の選定は、①現在の軽井沢町に設定されている都市計画区域内の別荘地エリア ②明治時代から大正時代にかけて植林が行われたと思われる地域の二つの条件に合った地域を対象とした。また、調査方法は文献調査およびアンケートの郵送をもって行った。

##### (1) 文献調査

軽井沢の植林および別荘、都市開発に関連する図書を選出し、文献調査を行った。

##### (2) アンケート調査

調査対象は軽井沢の文化施設及び協会、宿泊施設への郵送アンケート調査にて行った。軽井沢の軽井沢観光協会が出版しているパンフレット「軽井沢」<sup>6)</sup>に記載されている文化施設、教会、宿泊施設の一部を対象とし、敷地内の樹木の種類や樹高、自然景観の役割など、計20項目の質問からなるアンケートを行った。

#### 3. 結果と考察

##### (1) 文献調査の結果と考察

文献調査をもとに、軽井沢の植林史を **Table 1** に示す。 **Table 1** より、鳥居義処、雨宮敬次郎が筆頭となり軽井沢の植林に大きな影響を与えたことが分かる。

A.C.ショー氏が、閑散とした軽井沢の景色を、彼の故郷であるカナダに重ね、この地の別荘地としてのポテンシャルを見出したということは多くの文献から読み取れたことであつたが、その A.C.ショー氏が訪れる約10年以上も前から、鳥居ら二人をはじめとして、幾らかの実業家などが先駆けてこの地で植林を行っていたことが分かる。彼らの行った植林は、開拓に伴いこの地の財産となることを目的としたものであり、「別荘地開発」という明確な目的があつたわけではないと推測される。その後、明治30年ごろの野沢源次郎氏の別荘地開発を機に、この軽井沢町の別荘地開発が本格化したとされる。

浅間山の噴火により、極相林になる前に絶えず遷移の初期段階に戻されることを繰り返しており、長い間閑散とした原野の景色で、この地でカラマツという良材を植林したことにより、現在の軽井沢の基盤となる姿が形作られたということが分かり、このカラマツの植林によりその後の別荘地開発を進めていく際に有効に活用することができたと考える。

また、文献調査より得られた植林の記録を **Figure 1** に示す。この図より、旧軽井沢を中心に植林がすすめられ、その後、南軽井沢、中軽井沢、千ヶ滝、追分地方へと派生していったことが考察される。

##### (2) アンケート調査結果

###### 回収率、属性等

アンケートの回収率は31% (32/102) であつた。

「軽井沢の樹木と言われて思い浮かぶのは(複数回答可)」という質問に対し、カラマツ32件中14件、コブシ32件中13件、シラカバ32件中6件という結果となった。カラマツの選定理由としては「街でよく見かけるから」「北原白秋の詩にあるから」という意見が

1: 日大理工・学部・まち 2: 日大理工・教員・まち

Table 1. History of Afforestation in Karuizawa

年号	主な出来事
1875年 (明治8年)①	鳥居義処 雲場地域周辺の軽井沢盆地 (旧軽井沢) 412町歩 (約408ha) を買収し、軍馬の育成や牧場・農場の開設を行った。防風林としてカラマツを20町歩 (約20ha) にわたって植林
1875年 (明治8年)②	鳥居義処、軽井沢官有地 100町歩の払い下げを受け、また民有地の買収を14年まで行い、312町歩を牧場都市、馬の改良、カラマツを植林する。(旧軽井沢)
1881年 (明治14年)	県村誌の長倉村の山林所有の記録では、アカマツ林が点在し、カラマツは離山の一部、東西二丁、南北五間というごくわずかの記載。(追分)
1883年 (明治16年)④	川上操六 矢ヶ崎山麓に牧場を企画する (南軽井沢)
1883年 (明治16年)⑤	雨宮敬次郎、官有地 500町歩民有地 600町歩を買収し、開墾、植林事業を計画、17万円 (約34億円) を投ずる。
1883年 (明治16年)	雨宮敬次郎による植林 年に30万~40万本のカラマツを農民とともに植樹 (追分)
1885年 (明治18年)	ショー氏友人ディクソンとともに和美峠を越えて軽井沢を訪れる。旧軽井沢を訪れたと推測
1886年 (明治19年)	ショーが訪れる 「旅籠・亀屋」 (現・万平ホテル) 旧軽井沢を訪れる。
1887年 (明治20年)	小瀬国有林の測量を始める。(国有林と民有林の境、群馬県と長野県の境など) (旧軽井沢東)
1887年 (明治20年)	閑散とした平原
1888年 (明治21年)	ショーが別荘を建てる 旧軽井沢の大塚山に簡素な別荘を建てる
1897年 (明治30年)	第一次森林法公布
1897年 (明治30年)⑨	野沢源次郎による開発パリのような放射状のまち並みを目指す。カラマツ林の緩やかなカーブを描く別荘道。軽井沢を緑豊かな環境にしようと、植林計画を進めた日本人の一人。(旧軽井沢)
1898年 (明治31年)	小泉郡の渡辺半太左衛門、200余町歩の植林と数戸の貸別荘を建てる。(南軽井沢)
1899年 (明治32年)	西長倉町、小学校基本財産造成の目的で、発地、追分両校に区分して植林を始める。
1902年 (明治35年)	川田龍吉 雲場の池、水門を造る。農作業のほかカラマツの植林を行う。(旧軽井沢)
1910年 (明治43年)	大洪水が軽井沢を襲う 旧軽井沢商店街を流れ、平地を湖と化した。
1972年 (昭和47年)	「軽井沢町の自然保護対策要綱」告示
1996年 (平成8年)	「軽井沢町の自然保護対策要綱取扱要領」

多く、コブシの選定理由としては「町木だから」「街でよく見かけるから」という意見があった。また、シラカバは「街でよく見かけるから」という意見が多かった。このことから、今現在も軽井沢では「軽井沢町の自然保護要綱」など自らが軽井沢の自然景観を愛し、

保護する活動を行っていることが分かり、さらにそれらの自然景観を売りにしているということが読み取れる。また、「自然景観の役割」という質問に対しては、「静けさがあって落ち着いた雰囲気を作る」が21件と最も多く、その次に「施設の雰囲気を作る」が15件、「施設の内部からの景色に色どりを与える」が13件、「軽井沢のイメージに合う」が12件という結果となった。このことから、自然景観が軽井沢らしさを生み、ゆったりと気品あふれる空間づくりに大きな影響を与えていると考える。また、「空気がきれいになる」という項目が4件だけにとどまったことから、軽井沢における自然景観、植物の役割の大部分を占めているのは軽井沢の独特な雰囲気を作り出すことであると考える。

#### 4. まとめ

浅間山の噴火の影響で、閑散とした高原であった軽井沢に目を付け、カラマツの計画的な植林事業を行ったのが、その後の軽井沢の別荘地開発に大きな影響をもたらしたとされる。軽井沢が全国でも有数の別荘地へと発展を遂げた背景には、避暑地として最適な気候風土に加えて、カラマツの大規模な植樹が大きくかかわっているということが分かった。大きく育った樹木が木陰を作り町の静けさや涼しきをもたらし、樹木で囲まれたプライベートな空間をもたらし、別荘地の形成に大きく影響を与えたと考えられる。

伊豆や箱根など、町の一部が別荘地エリアとなっている地域は、多くあるものの、町全体が別荘地となり、多くの文学者や著名人が避暑に訪れるという地域は軽井沢のアイデンティティとなっているのではないかと考えられる。その背景には、明治時代にこの地の将来性を見抜き、特性を生かしてカラマツの植林を行ったことによると考えられる。

#### 参考文献

- [1] 軽井沢町資料館・追分宿郷土館 (1992) : 軽井沢町資料館・追分宿郷土館 特別展 「軽井沢 を育てた森林の源流を探る-軽井沢植林史-」 : 追分宿郷土館 (長野) pp56
- [2] 長野県 (1978) : 「信州からまつ造林百年の歩み」 : 長野県 (長野) pp657
- [3] 軽井沢町誌刊行委員会会長佐藤正人 (1987) : 「軽井沢町誌 自然編」 (長野) pp38
- [4] 中島松樹 (2000) : 「軽井沢避暑地 100年」 : 国書刊行会 (東京) pp176
- [5] 郡司聡 (2016) : プラタモリ 4 松江 出雲 軽井沢 博多・福岡 : KADOKAWA (東京) pp144
- [6] 軽井沢観光協会 (2021) : 「軽井沢」 : 軽井沢観光協会 (長野) : pp31
- [7] 軽井沢町観光経済課 (2021) : 「軽井沢案内」 : 軽井沢町観光経済課 (長野) : pp71

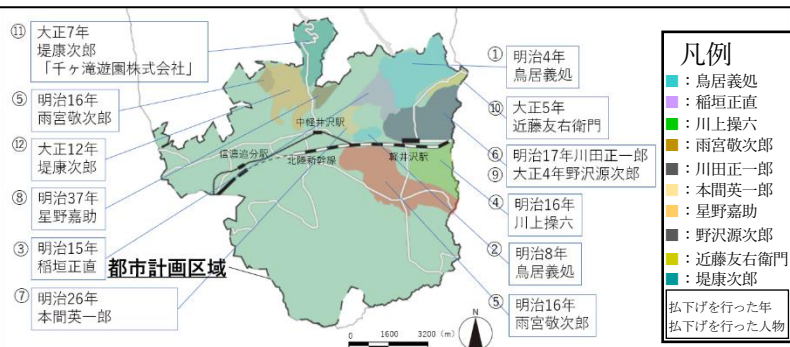


Figure 1. Tree planting map of Karuizawa